

# 音 楽（器楽合奏）

## 1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称		教科書名
17	教 出	中学器楽 音楽のおくりもの
27	教 芸	中学生の器楽

## 2 教科書の調査研究における観点、視点及び方法

観点		視点	方法
(ア)	基礎・基本の定着	① 題材の目標の示し方	目標の提示の仕方とその具体例
		② 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫	和楽器の取扱い方
(イ)	学習方法の工夫	③ 興味・関心を高めるための工夫	多様な音楽活動のための資料, 巻頭と巻末の取扱い方
		④ 和楽器の学習方法の工夫	箏の学習展開の工夫
(ウ)	内容の構成・配列・分量	⑤ 教材数や配列	演奏形態及びカテゴリー別教材数と配列
(エ)	内容の表現・表記	⑥ 本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト等の活用	写真やイラスト等の活用
(オ)	言語活動の充実	⑦ 思いや意図を相互に伝え合う活動の工夫	表現の工夫を伝え合う活動につながる記述と具体例

<b>観点</b>	(ア) 基礎・基本の定着
<b>視点</b>	①題材の目標の示し方
<b>方法</b>	目標の提示の仕方とその具体例

	目標の提示の仕方	具体例
<b>教出</b>	○ 楽器ごとに学習の目標を提示している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 箏の響きを味わおう</li> <li>○ 三味線の音を体験しよう</li> <li>○ 心に響く音色をだしてみよう</li> <li>○ 体で響きを感じてみよう</li> <li>○ 龍神太鼓に挑戦</li> <li>○ 豊かな音色を感じてみよう</li> <li>○ リコーダーを楽しもう</li> <li>○ ギターを弾こう</li> <li>○ 様々な打楽器の世界</li> <li>○ マンボに挑戦しよう</li> </ul>
<b>教芸</b>	○ アンサンブル曲ごとに「アンサンブルセミナー」の中で学習の目標を提示している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 曲想に合わせて表現を工夫しよう。</li> <li>○ 声部の重なり方の特徴を生かしてアンサンブルを工夫しよう。</li> <li>○ 曲の構成を生かしてリズム伴奏を工夫しよう。</li> </ul>

<b>観点</b>	(ア) 基礎・基本の定着
<b>視点</b>	②器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫
<b>方法</b>	和楽器の取扱い方

和楽器の取扱い方		
教 出	配列等	○ 箏（6ページ）→三味線（6ページ）→篠笛（2ページ）→大太鼓／締太鼓（4ページ）→尺八（2ページ）
	内容	○ 各楽器の基本的な知識・かまえ方・奏法が写真で示されている。
	楽譜	○ 縦書きの楽譜が1曲（「さくらさくら」）掲載されている。
	楽器ごとの楽曲	○ 箏『こきりこ節』から ○ 三味線『かんつばき』から「さくらさくら」 ○ 篠笛「たこたこあがれ」 ○ 大太鼓「龍神太鼓に挑戦」 ○ 尺八「なべなべそこぬけ」
	合奏曲	○ 箏1，箏2による「さくらさくら」 ○ 篠笛1（またはSリコーダー）篠笛2（またはSリコーダー）締太鼓，大太鼓による「輪踊り」 ○ 三味線1，三味線2による「かんつばき」 ○ Aリコーダー，箏による「千の風になって」 ○ Sリコーダー，Aリコーダー，三味線，箏，締太鼓，大太鼓による「越天楽」 ○ ソプラニーノ・Aリコーダー，Sリコーダー（またはTリコーダー），三味線，箏，締太鼓，大太鼓による「からくり絵巻」
	その他	○ 「名曲旋律集」に箏の演奏曲が4曲掲載されている。
教 芸	配列等	○ それぞれの楽器が単独で，箏（8ページ）→三味線（8ページ）→太鼓（6ページ）→篠笛（2ページ）→尺八（2ページ）の順に示されている。
	内容	○ 各楽器の基本的な知識・姿勢と構え方・奏法が写真等で示されるとともに，「和楽器こぼれ話」「キーワード」「音をさがそう」のコーナーを設けている。
	楽譜	○ 家庭式縦譜が4曲（「虫づくし」「さくらさくら（独奏）」「さくらさくら（二重奏）」「さらし」）掲載され，楽譜の読み方が説明されている。
	楽器ごとの楽曲	○ 箏「虫づくし」「さくらさくら（独奏）」「さくらさくら（二重奏）」 ○ 三味線「さくらさくら」「寄せの合方」 ○ 太鼓「風にのって」 ○ 篠笛「たこたこあがれ」「ほたるこい」 ○ 尺八「夕やけこやけ」
	合奏曲	○ 三味線，リズム打ちによる『寄せの合方』によるリズムアンサンブル ○ 三味線1，三味線2による「花てまり」 ○ 箏1，箏2による「さらし」
	その他	○ それぞれの楽器の鑑賞曲が紹介されている。（箏3曲，三味線3曲，太鼓2曲，篠笛2曲，尺八2曲） ○ 箏による創作が示されている。

(注) アルト・リコーダーをAリコーダー，ソプラノ・リコーダーをSリコーダー，テナー・リコーダーをTリコーダーと表記している。以下同じ。

<b>観点</b>	(イ) 学習方法の工夫
<b>視点</b>	③興味・関心を高めるための工夫
<b>方法</b>	多様な音楽活動のための資料，巻頭と巻末の取扱い方

	多様な音楽活動のための資料		巻頭と巻末の取扱い方	
	資料名と内容	曲数	巻頭	巻末
教 出	○ 「いろいろな合奏」として，Aリコーダーと箏，ラテンパーカッションなど，リコーダーと和楽器，体で打楽器の演奏曲を掲載している。	6	○ 「With My Heart 音楽はメッセージ」と題し，巻頭見開きに太鼓奏者林英哲の写真と言葉が掲載されている。さらに，米川敏子（箏），今藤長十郎（三味線），福原徹（篠笛），田辺頌山（尺八）の写真と言葉が掲載されている。	○ 資料として，「箏の縦書きの楽譜『さくらさくら』」「リコーダーの運指表」「コードネームとダイヤグラム」「いろいろな用語，記号」が掲載されている。
	○ 「名曲旋律集」として，A・リコーダー，AまたはSリコーダー，箏の楽譜を掲載している。	19		
教 芸	○ 「アンサンブル」として，Aリコーダーアンサンブル，ギターアンサンブル，SリコーダーとAリコーダーとその他の楽器によるアンサンブル，打楽器によるアンサンブルを掲載している。	19	○ 「楽器と出会うー奏者から皆さんへー」と題し，遠藤千晶（箏），大萩康司（ギター），川端りさ（リコーダー），藤原道山（尺八）の写真と言葉が掲載されている。さらに「さまざまな楽器ービートルズの名曲を彩る楽器ー」，「いろいろな長さの笛」が掲載されている。	○ 資料として，「リコーダーの運指表」「ギターのコード」「ダイヤグラムー覧」「音楽の約束（音符・休符・記号）」「日本の伝統音楽の楽器編成」が掲載されている。
	○ 「名曲スケッチ」として，Aリコーダーの楽譜と，それぞれの曲の説明を掲載している。	9		

<b>観点</b>	(イ) 学習方法の工夫
<b>視点</b>	④和楽器の学習方法の工夫
<b>方法</b>	箏の学習展開の工夫

箏の学習展開の工夫		
教出	題材名	○ 和楽器 箏（こと） 箏の響きを味わおう
	学習の流れ	○ 各部の名称→弦名→柱の立て方→爪→調弦法→かまえ方→親指による基本的な奏法→奏法・押し手→奏法・合せ爪→いろいろな奏法（スクイ爪・ピッツィカート）
	基本的な奏法（親指による）	○ 演奏者を正面に見た角度の写真を載せ、1ページに3段階に分けて説明している。
	楽譜	○ 五線譜で示され、音符の下に弦名が漢数字で書かれている。
	資料	○ 箏と琴についての説明と、調弦を民謡調子に変えて演奏できる「こきりこ節」の楽譜が掲載されている。
ページ数	○ 6ページ	
教芸	題材名	○ 箏
	学習の流れ	○ 構造→柱の立て方→爪→調弦→姿勢と構え方→基本的な奏法（親指・中指）→いろいろな奏法（押し手・合せ爪・スクイ爪・流し爪・ピッツィカート・トレモロ）
	基本的な奏法（親指・中指）	○ 演奏者側から見た角度の写真を載せ、親指と中指の説明をしている。
	楽譜	○ 家庭式縦譜と五線譜（音符の下に漢数字での弦名）の2種類が示されている。
	資料	○ 楽器ガイド、鑑賞教材3曲、「和楽器こぼれ話」「キーワード」「音を探そう」が示されている。さらに、平調子の旋律づくり（創作）、「さくらさくら」の独奏および二重奏の楽譜が掲載されている。
ページ数	○ 8ページ	

<b>観点</b>	(ウ) 内容の構成・配列・分量
<b>視点</b>	⑤教材数や配列
<b>方法</b>	演奏形態及びカテゴリー別教材数と配列

	カテゴリー	演奏形態							教材の配列		
		独 奏 曲									
		A リ コ ー ダ ー	ギ タ ー	箏	三 味 線	和 太 鼓	篠 笛	尺 八		合 奏 ・ ア ン サ ン プ ル	
教 出	クラシック音楽	12	1						10	① 箏 ② 三味線 ③ 篠笛 ④ 大太鼓/締太鼓 ⑤ 尺八 ⑥ リコーダー ⑦ ギター ⑧ 打楽器 ⑨ 和楽器による合奏 ⑩ リコーダーによる合奏 ⑪ いろいろな合奏 ⑫ 名曲旋律集	
	日本歌曲			4							
	日本古来の曲				1	1			3		
	わらべうた						1	1			
	日本の民謡			1							
	世界の民謡	2							2		
	映画・ポピュラー音楽等	6	1						6		
	その他オリジナル等	6			2				7		
教 芸	クラシック音楽	12							4		① Aリコーダー ② ギター ③ 箏 ④ 三味線 ⑤ 太鼓 ⑥ 篠笛 ⑦ 尺八 ⑧ アンサンブルセミナー ⑨ アンサンブル ⑩ 名曲スケッチ
	日本歌曲	1							1		
	日本古来の曲			2	2				3		
	わらべうた						2	1			
	日本の民謡										
	世界の民謡	3							4		
	映画・ポピュラー音楽等	1	1						15		
	その他オリジナル等	1				1			1		

<b>観点</b>	(エ) 内容の表現・表記
<b>視点</b>	⑥本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト等の活用
<b>方法</b>	写真やイラスト等の活用

	写真の活用	イラスト等の活用
<b>教出</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロの演奏家が演奏している写真 <ul style="list-style-type: none"> <li>・和楽器は、巻頭に和太鼓・箏・三味線・篠笛・尺八が掲載されている。</li> <li>・ギターと打楽器については各章の初めのページに掲載され、種類や演奏形態の異なる演奏場面を比較できるようになっている。</li> </ul> </li> <li>○ 楽器や構え方、奏法に関する写真 <ul style="list-style-type: none"> <li>・箏、三味線、篠笛、大太鼓、締太鼓、尺八、リコーダー、ギター、小太鼓、コンガ、ティンパレス、ボンゴ、クラベスについて掲載されている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マーク <ul style="list-style-type: none"> <li>・合奏や旋律集のページにある楽譜には、難易度を表す★マークがつけられている。</li> </ul> </li> <li>○ 色分け <ul style="list-style-type: none"> <li>・目次で、楽器や項目ごとに見出しの色を統一し、中味と対応している。</li> </ul> </li> </ul>
<b>教芸</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロの演奏家が演奏している写真 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各楽器（Aリコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八）の見出しと共に演奏場面が掲載されている。</li> <li>・ギターと太鼓については、様々な演奏形態が比較できるように掲載されている。</li> </ul> </li> <li>○ 楽器や構え方、奏法に関する写真 <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aリコーダー、ギター、箏、三味線、長胴太鼓、締太鼓、篠笛、尺八について掲載されている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ キャラクター <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般教科書に出てくる男の子と女の子のキャラクターが、箏の創作とアンサンブルセミナーに登場する。</li> </ul> </li> <li>○ 色分け <ul style="list-style-type: none"> <li>・目次で、楽器や項目ごとに見出しの色を統一し、中味と対応している。</li> </ul> </li> </ul>

<b>観点</b>	(オ) 言語活動の充実
<b>視点</b>	⑦ 思いや意図を相互に伝え合う活動の工夫
<b>方法</b>	表現の工夫を伝え合う活動につながる記述と具体例

	表現の工夫を伝え合う活動 につながる記述	具体例
教出	○ 器楽の活動において、合わせて演奏する際の工夫する視点を記述している。	○ 教科書全般における具体例 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 互いの音を聴き合いながら、二部合奏を楽しもう。</li> <li>・ 各パートのリズムが違うので、よく聴きあって合わせましょう。</li> <li>・ 三つのパートがそれぞれ異なる強弱で動きます。曲のタイトルをヒントにしなが、アンサンブルを楽しみましょう。</li> </ul>
教芸	○ 「アンサンブルセミナー」(器楽・創作)において、グループアンサンブルの中で工夫する視点を挙げるとともに、活動のステップを記述している。	○ 「アンサンブルセミナー」の教材『テキーラ』における具体例 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 打楽器の入ったCDの演奏を聴いて、リズム、旋律、音色などに注目しながら曲の構成を感じ取りましょう。</li> <li>・ グループに分かれてA・B・Cそれぞれの部分に3～4パートからなるリズム伴奏を考えます。下のリズムパターンを組み合わせて、曲の構成に合ったリズム伴奏をつくりましょう。</li> <li>・ それぞれのパートに合う楽器などを選んで、打楽器の入っていないCDの演奏にリズム伴奏を加えて演奏してみましょう。</li> </ul>